なるほど！伊勢神宮・出雲大社講座

祝 古事記成立 1300 年

＜ フロー・チャート ＞

導入

本編

1．古事記が成立した頃の日本
　（1）当時の政治動向
　（2）古事記の概要
2．伊勢神宮
　（1）伊勢神宮といえば？
　（2）伊勢神宮の核心
3．出雲大社
　（1）出雲大社といえば？
　（2）出雲大社の核心
4．伊勢神宮と出雲大社
　（1）対照的な伊勢神宮と出雲大社
　（2）伊勢神宮と出雲大社の深いつながり

質疑応答

まとめ

伊勢うどん

手こね寿司

石川 恵悟

１．古事記が成立した頃の日本

（１）当時の政治動向

資料 1．年表

時代	西暦	できごと
大和	562	任那が新羅に滅ぼされる
飛鳥	593	聖徳太子が推古天皇の摂政に→隋に国書
	645	乙巳（いっし）の変：中大兄皇子・中臣鎌足が蘇我本宗家（蝦夷、入鹿）を滅ぼす
	659	出雲大社の造営？
	663	白村江（はくすきのえ）の戦い：百済の救援に向かい、唐・新羅連合軍に敗北
	672	壬申（じんしん）の乱：大海人皇子が大友皇子を倒す →大海人皇子は天武天皇として即位
	689	飛鳥浄御原令（きよみはらりょう）
	692	伊勢神宮の造営？
	697	持統天皇譲位 → 文武天皇即位
	701	大宝律令
奈良	710	平城京遷都
	718	養老律令
	724	聖武天皇即位

（２）古事記の概要

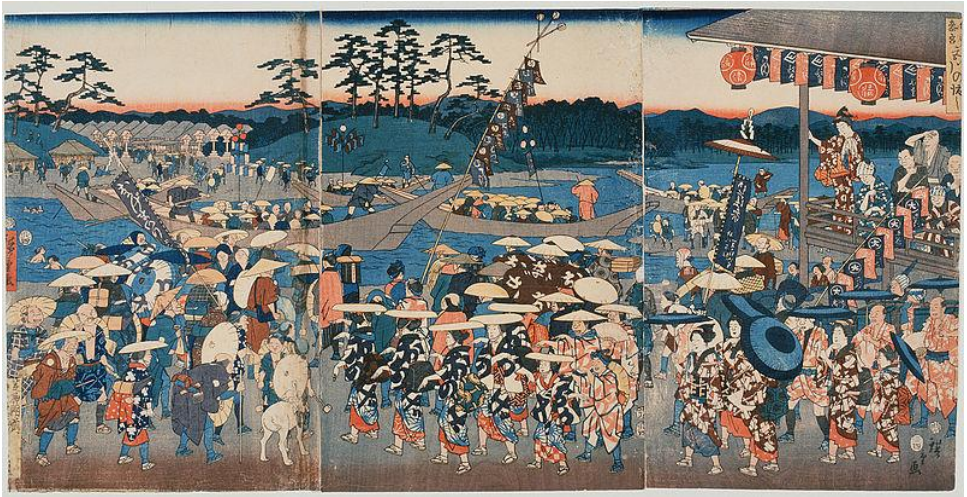
資料 2．古事記、日本書紀、出雲風土記

	古事記（712 年）	日本書紀（720 年）	出雲風土記（733 年）
編者	稗田阿礼、太安万侶	舎人親王ほか	出雲国造
表記	漢文ではあるが、日本語的な表現含む	漢文	漢文
収録年代	推古天皇まで ※出雲神話あり	持統天皇まで ※出雲神話なし	＜内容＞地名、産物、土地の肥沃、古伝承等
性格	天皇家の私史	海外向けの正史	他の風土記と比べて天皇関連の記事が少ない

２．伊勢神宮

（１）伊勢神宮といえば？

資料 3.（　　）



資料 4.（　　）による伊勢神宮賞讃の言葉

> 日本の文化が世界のあらゆる民族に寄与したところのものに対して、多少なりとも心を動かされる人は、親しく伊勢に詣でねばならない。そこにはこの文化のあらゆる特質が一つに結晶しており、それゆえに単なる国民的聖地より以上の何ものかが見出されるのである。
>
> 外宮を持った伊勢は ― 一言にして言えば ― そもそも建築術の神殿であるのだ。

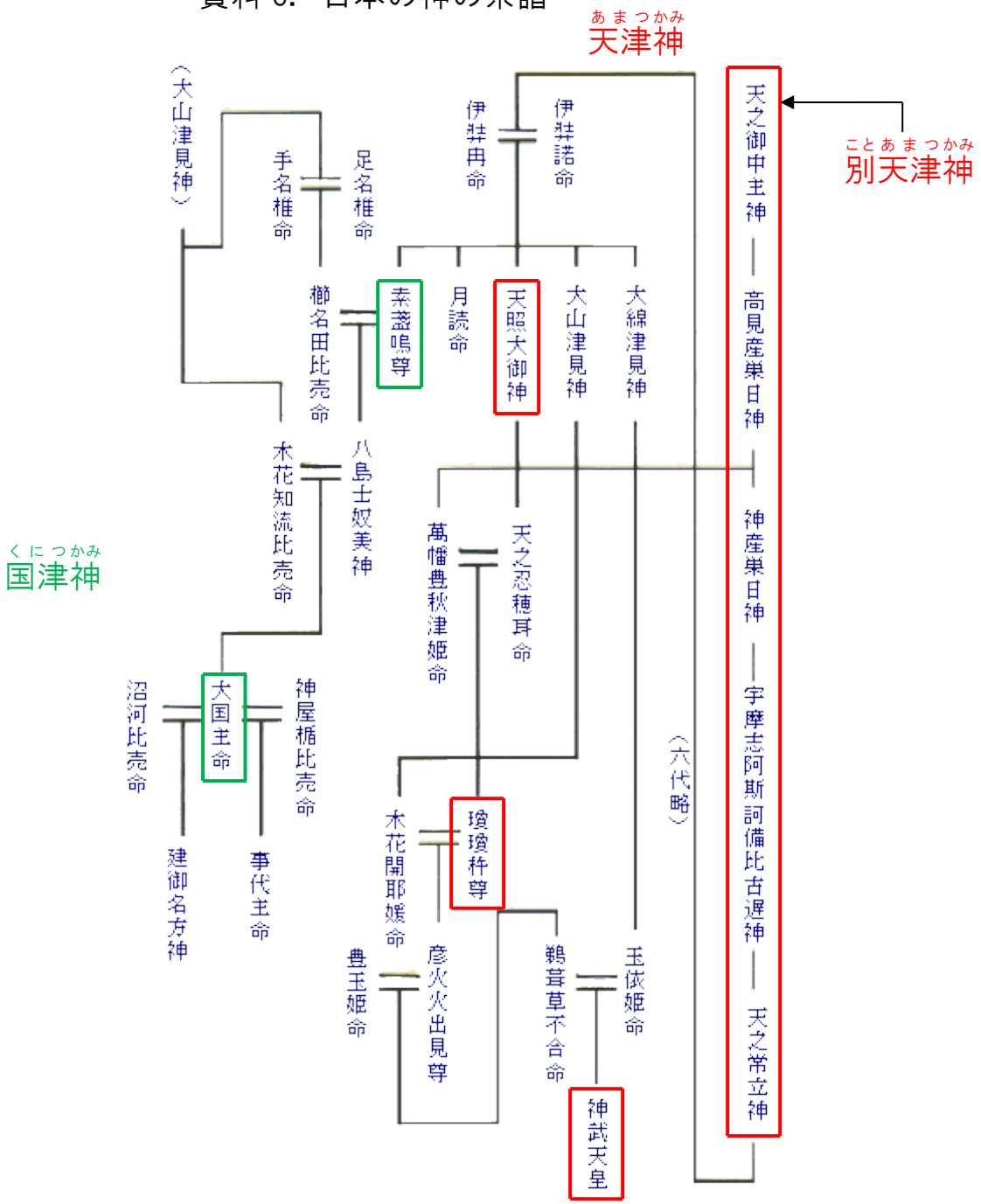
資料 5. 伊勢と太陽

＜夫婦岩＞

＜宇治橋に立つ鳥居＞

（２）伊勢神宮の核心

資料 6.　日本の神の系譜



資料 7.　歴代天皇（第 33～46 代）　　カッコ内は在位

33　推古（592～628）	38　天智（668～671）	43　元明（707～715）
34　舒明（629～641）	39　弘文（671～672）	44　元正（715～724）
35　皇極（642～645）	40　天武（673～686）	45　聖武（724～749）
36　孝徳（645～654）	41　持統（690～697）	46　孝謙（749～758）
37　斉明（655～661）	42　文武（697～707）	※赤字は女性

資料 8.　豊受大神エピソード

雄略天皇（第 21 代）の時代に、天照大神が夢に現れ、宣託を下す。

> 「吾れ一所のみ坐せばいと苦し。しかのみならず大御饌も安く聞こしめさず坐すが故に、丹波国比治の真名井に坐す我が御饌都神、等由気大神（とようけのおおかみ）を我許に欲す。」

↓

豊受大神が外宮に祀られる

『止由気宮（とゆけぐう）儀式帳』（804 年）より

資料 9.　天の羽衣伝説

昔、比治山の山頂に真奈井という泉があり、八人の天女が水浴していた。これを見た老夫婦は、一人の羽衣を隠してしまう。

天に帰れなくなった天女は、羽衣と引き換えに老夫婦の娘となり、一緒に暮らすことにした。天女は一杯飲むと万病が治るという酒をつくり、家は大変豊かになった。

しかし、老夫婦はやがて娘を疎んじるようになり、家から追い出してしまう。天女は嘆き悲しみながら丹後をさまよい、奈具の村へとたどり着き鎮座した。この天女が豊宇賀能売命（とようかのめのみこと）であるという。

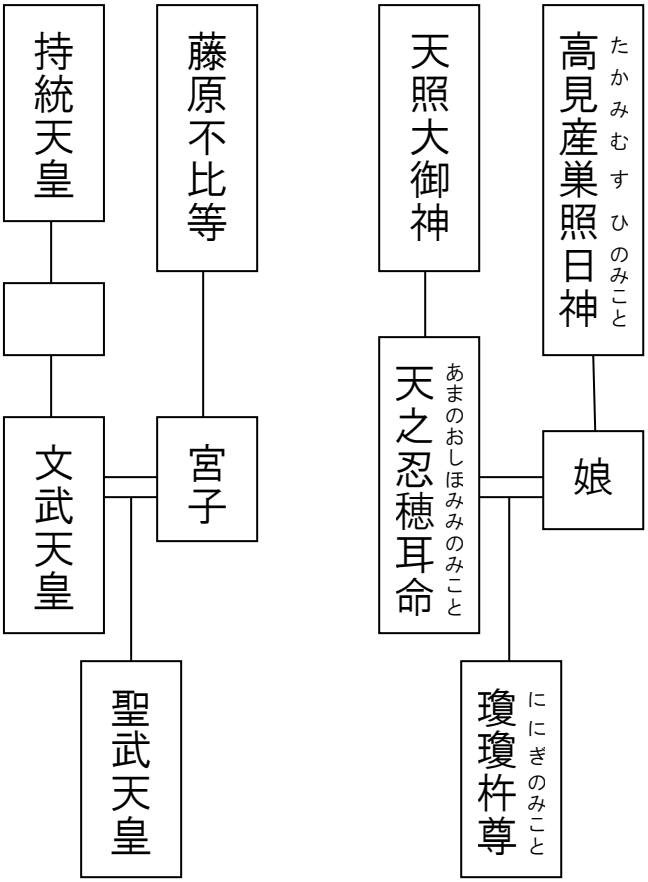
『丹後国風土記』逸文より

資料 10.　持統天皇の和歌

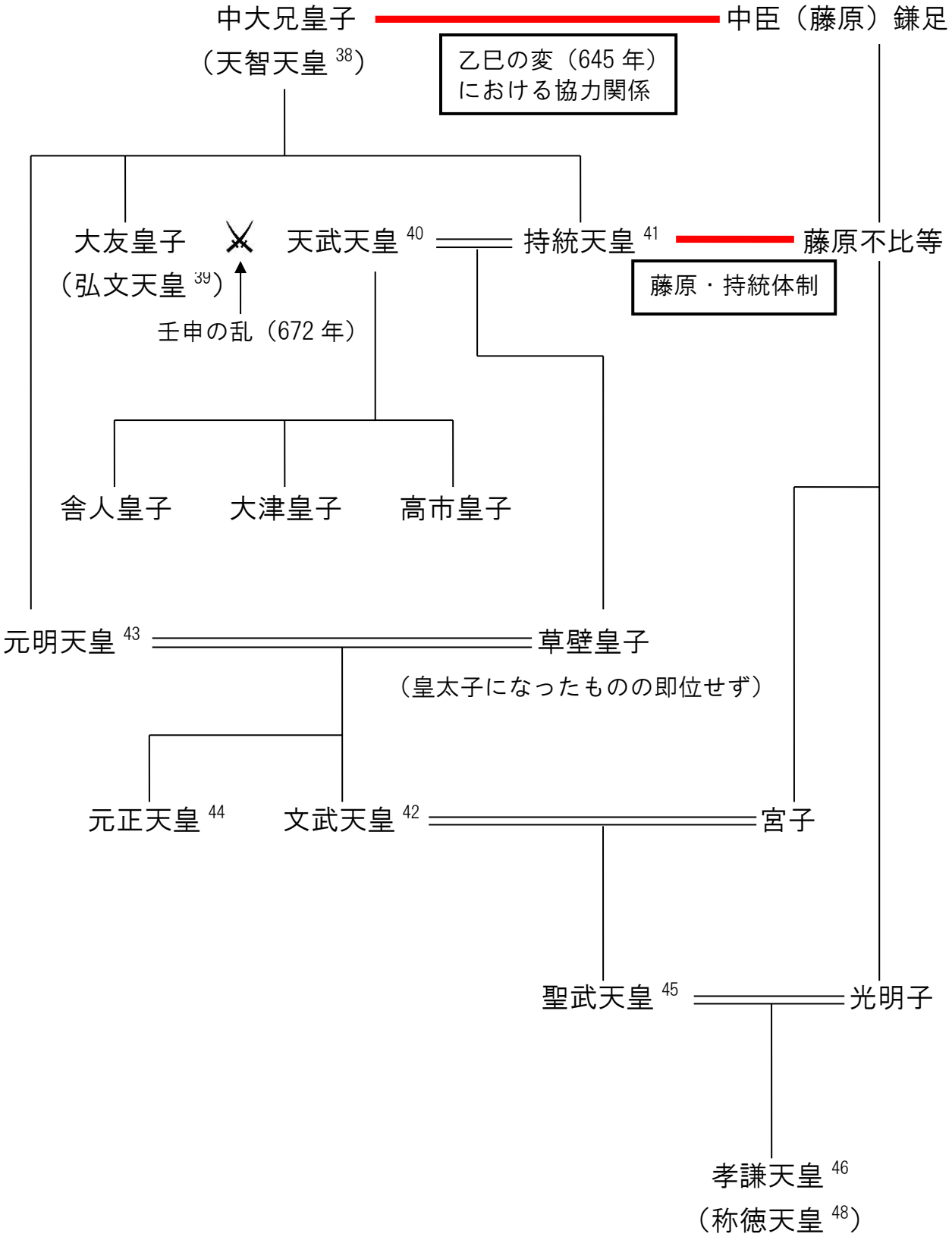
春すぎて　夏来にけらし　白妙の
衣ほすてふ　天の香具山

『新古今和歌集』
『百人一首』

資料 11.　天孫降臨と持統・藤原体制



資料 12. 皇位継承の系図（第 38～46 代）



３．出雲大社

（１）出雲大社といえば？

資料 13.（　　）ランチ

資料 14-A. 出雲神話その１

資料 14-B. 出雲神話 その２

資料 15. 最古の和歌

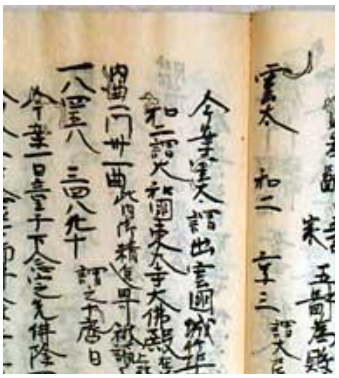
八雲立つ　出雲八重垣　妻ごみに
八重垣作る　その八重垣を

（　　）

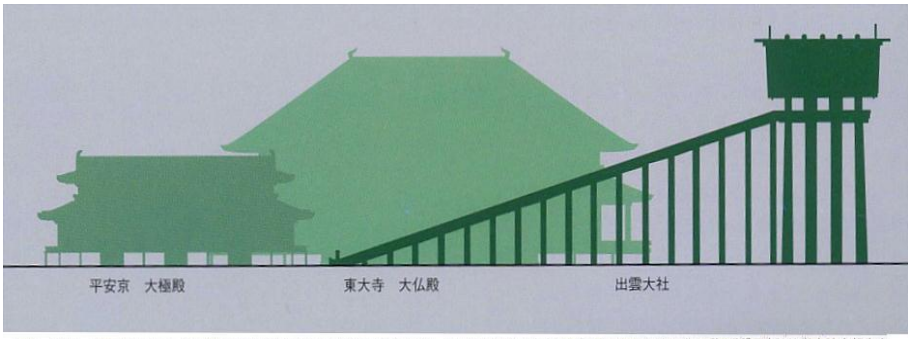
『古事記』
『日本書紀』

（２）出雲大社の核心

資料 16. 『口遊（くちずさみ）』



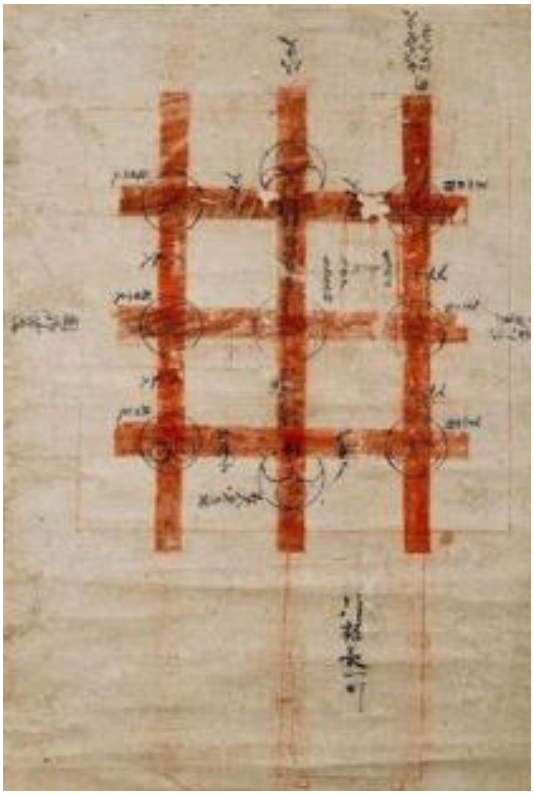
資料 17. 雲太・和二・京三



雲太・和二・京三シルエット（出雲大社本殿：福山敏男監修・大林組設計、東大寺大仏殿：山本栄吾「東大寺創建大仏殿復元私考」（「日本建築学会論文報告書69号）、平安宮大極殿：高橋康夫監修設計図面による）

資料 19. 出雲大社の復元予想図

資料 18. 金輪造営図（かなわのぞうえいず）



資料 20. 心御柱発掘の報道記事

朝日新聞　2000.10.8 朝刊

出雲大社から心御柱

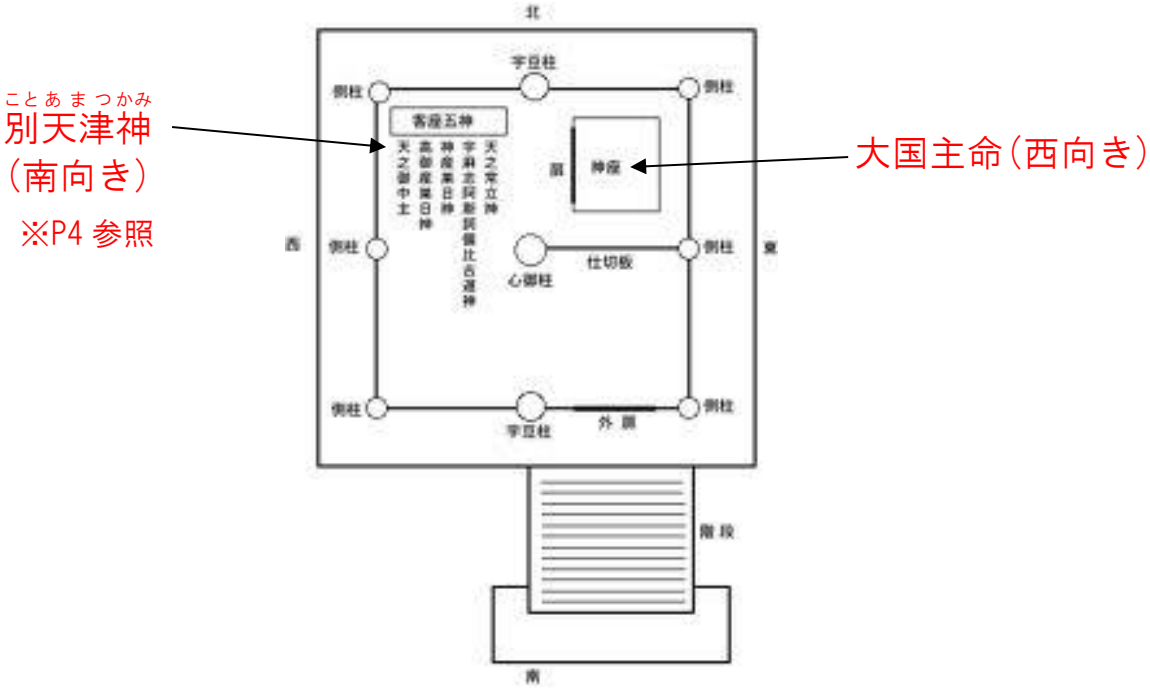
48メートル神殿裏付け　平安末期本殿跡

平安末期の本殿の心御柱基部が見つかった出雲大社境内の発掘現場＝島根県大社町で、本社ヘリから

出土した平安末期の本殿の心御柱基部（手前のまつの円形）＝島根県大社町の出雲大社で

島根県大社町の出雲大社境内で、現在の本殿の約二倍、約四十八メートルの高さがあったと伝えられる平安時代末期（十二世紀ごろ）の本殿跡を調査していた同県教委と大社町教委は、本殿の中央部に位置し「神が宿る」とされた心御柱の基部が出土したと十日、発表した。古代の心御柱が見つかったのは初めて。本殿の床をささえていた柱穴（直径一メートル、深さ一メートル）の中央に、西方にたおれた柱根が出土した。本殿の構造を伝える手がかりとなる。柱根は、三本のスギの丸太が数カ所、金輪で巻かれ、一本に束ねられていたようである。付属していた板材から、床などを使われていたようである。柱根は、長さ五メートルで、地下六メートルまで埋まっていた。

資料 21. 出雲大社本殿平面図



4．伊勢神宮と出雲大社

（1）対照的な伊勢神宮と出雲大社

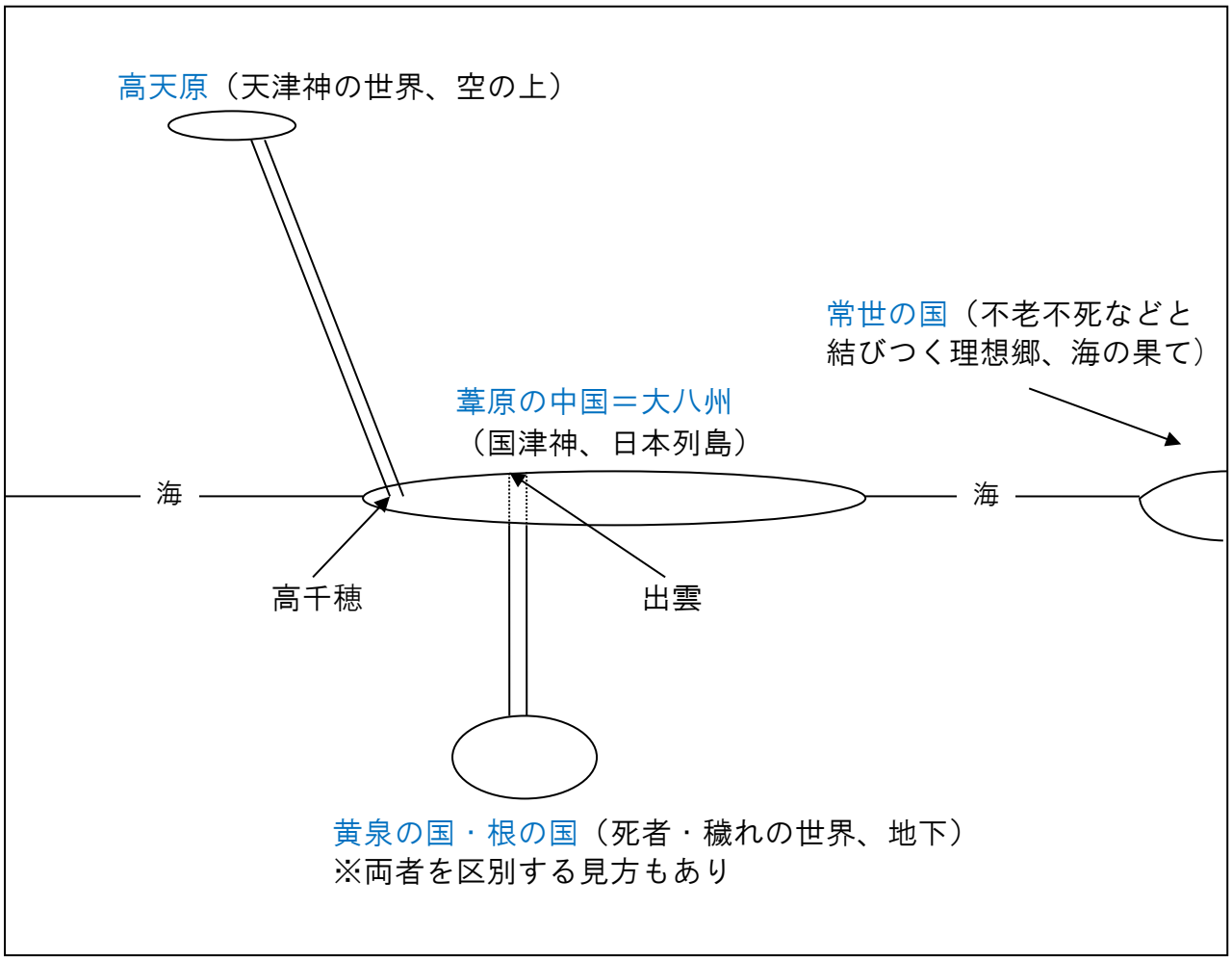
資料 22. 西行法師の和歌

何事の おはしますかは 知らねども
かたじけなさに 涙こぼるる
（伊勢神宮にて）
『異本山家集』

資料 23.（　　）氏の言葉

「分厚いボリューム。千木をてっぺんに、ぶすりと太々とした柱を地上に突きたてているたくましいハリを組み上げ、荘重でいながら空間的な切れ味。日本の過去の建築物で、これほど私をひきつけたものはなかった。この野蛮なすごみ、迫力、おそらく日本建築美の最高表現であろう。」
『出雲大社の本殿』

資料 24.　古事記の世界観



資料 25-A.　高天原遥拝所

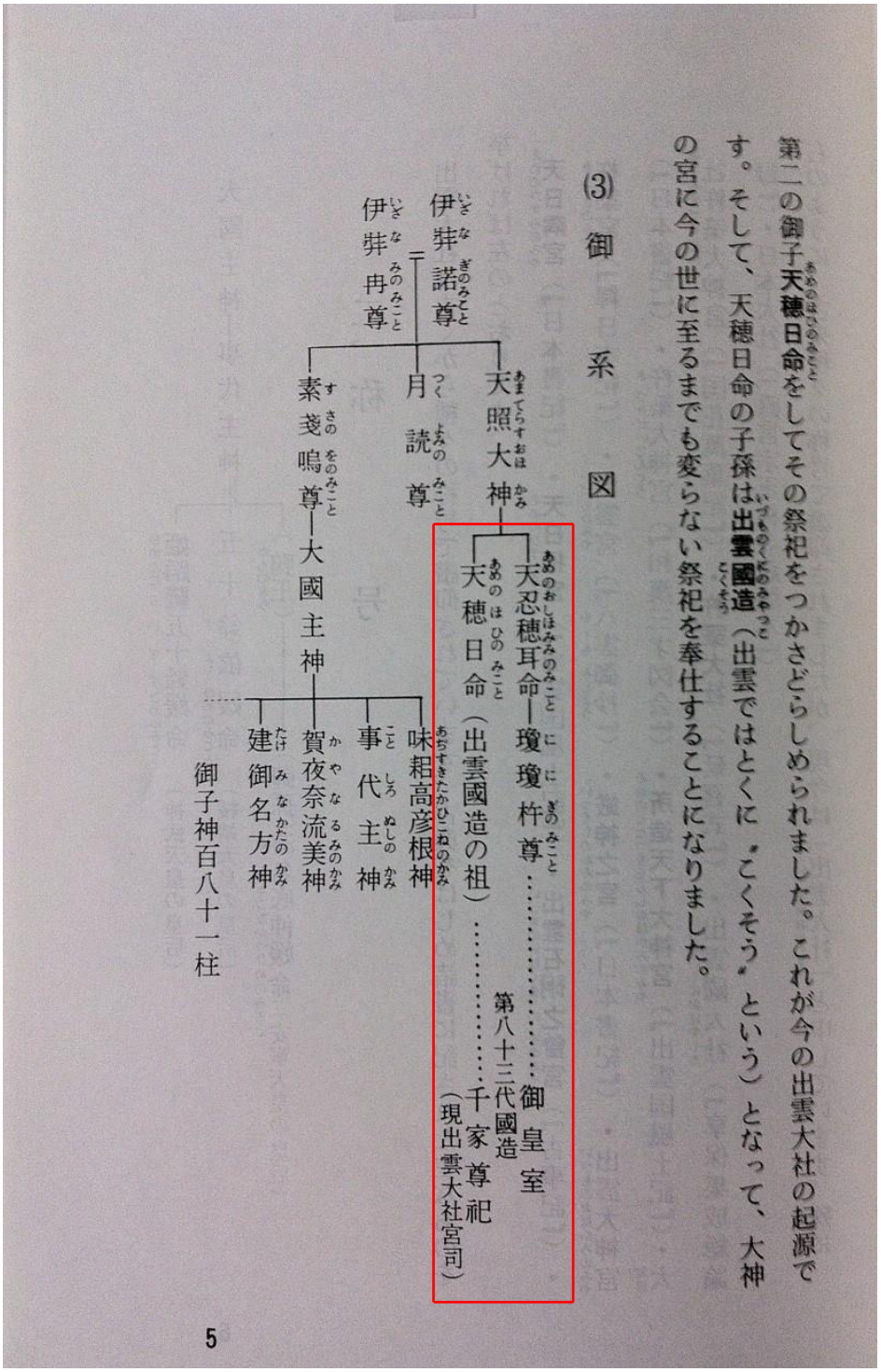
宮崎県西臼杵郡高千穂町

資料 25-B.　黄泉比良坂（よもつひらさか）
（黄泉の国への入口）

島根県松江市東出雲町

（２）伊勢神宮と出雲大社の深いつながり

資料 26. 皇室と出雲国造家の御系図



第二の御子天穂日命をしてその祭祀をつかさどらしめられました。これが今の出雲大社の起源です。そして、天穂日命の子孫は出雲國造（出雲ではとくに〝こくそう〟という）となって、大神の宮に今の世に至るまでも変らない祭祀を奉仕することになりました。

(3) 御系図

伊弉諾尊
伊弉冉尊
天照大神
月読尊
素戔嗚尊
天忍穂耳命
瓊瓊杵尊……御皇室
天穂日命（出雲國造の祖）……第八十三代國造 千家尊祀（現出雲大社宮司）
大國主神
味耜高彦根神
事代主神
賀夜奈流美神
建御名方神
御子神百八十一柱

5

＜出所＞出雲大社社務所『出雲大社由緒略記』P5

＜注記＞現在は第 84 代「千家尊祐」（2002 年～）

＜参考文献＞

1. 安達巌『出雲神在月の謎にせまる』（三一書房）1992
2. 井沢元彦『逆説の日本史①』（小学館）1993
3. 出雲大社社務所『出雲大社の本殿』1955
4. 出雲大社社務所『出雲大社由緒略記』1928
5. 井上宏生『日本神話の神々』（詳伝社新書）2007
6. 上田篤『一万年の天皇』（文春新書）2006
7. 宇治谷孟訳『日本書紀』上・下（講談社学術文庫）1988
8. 梅原猛『葬られた王朝』（新潮社）2010
9. 大山誠一『天孫降臨の夢』（ＮＨＫブックス）2009
10. 荻原千鶴『出雲国風土記』（講談社学術文庫）1999
11. 長部日出雄『「古事記」の真実』（文春新書）2008
12. 笠原英彦『歴代天皇総覧』（中公新書）2001
13. 門脇禎二『出雲の古代史』（ＮＨＫブックス）1976
14. 上坂信男訳『竹取物語』（講談社学術文庫）1978
15. 小泉八雲『神々の国の首都』（講談社学術文庫）1990
16. 神野志隆光『古事記と日本書紀』（講談社現代新書）1999
17. 坂本勝『図説 古事記と日本書紀』（青春新書）2009
18. 坂本勝『図説 風土記』（青春新書）2011
19. 島崎晋『図解 日本人なら知っておきたい古事記』（洋泉社）2008
20. 新谷尚紀『伊勢神宮と出雲大社』（講談社選書メチエ）2009
21. 関裕二『伊勢神宮の暗号』（講談社）2009
22. 関裕二『出雲大社の暗号』（講談社）2010
23. 千家尊統『出雲大社』（学生社）1968
24. 武光誠『日本人なら知っておきたい神道』（KAWADE 夢新書）2003
25. 瀧音能之『古事記 22 の謎の収集』（青春文庫）2012
26. 瀧音能之『図説 伊勢神宮と出雲大社』（青春新書）2010

27. 武澤秀一『伊勢神宮の謎を解く』（ちくま新書）2011
28. 多田元監修『図解 古事記・日本書紀』（西東社）2010
29. 次田真幸訳『古事記』上・中・下（講談社学術文庫）1977　1980　1984
30. 遠山美都男『蘇我氏四代』（ミネルヴァ書房）2006
31. 鳥越憲三郎『出雲神話の誕生』（講談社学術文庫）2006
32. 原田常治『記紀以前の資料による古代日本史』（同志社）1976
33. ブルーノ・タウト『ニッポン』（講談社学術文庫）1991
34. 溝口睦子『アマテラスの誕生』（岩波新書）2009
35. 三橋健『図解 伊勢神宮と出雲大社』（PHP）2011
36. 茂木貞純『知識ゼロからの伊勢神宮入門』（幻冬舎）2012
37. 山蔭基央『伊勢と出雲 神道の叡智』（講談社）2012
38. 山崎謙『いま解き明かす 出雲大社の謎』（DHC）1994
39. 山崎謙『まぼろしの出雲王国』（PHP）2010
40. 吉野裕訳『風土記』（平凡社）2000
41. 『神道の本』（学研）1992
42. 『日本の神々の事典』（学研）1997
43. 『歴史探訪シリーズ 聖なる神社』（普遊舎）2012

＜参考ウェブサイト＞

伊勢市観光協会
出雲大社
荒神谷博物館
東京国立博物館
宮地嶽神社